

平成20年度「学校評価」分析と課題

大阪商業大学高等学校

I. 教員

1. 評価できる事項

- ・教員が協力し合って学校運営にあたり、学校の雰囲気がよく生徒が生き生きして、本校に入学して良かったと思っている生徒が多いと感じている。
- ・生徒にわかり易い授業を実践し、教材の工夫や授業の進度に対して生徒がほぼ満足していると捉えている。
- ・進路に関しても必要な情報提供をし、面談にて適切にアドバイスしている。
- ・学校行事が楽しいものであり、部活動も活発で充実していると受けとめている。
- ・生徒の悩みについて親身になり相談にのっている。家庭連絡も密にし、きめ細かい指導をしている。
- ・生徒が学校のきまりを概ね理解し、学校の指導によくしたがっていると受けとめている。

2. 課題

- ・生徒に対する宿題の量＝家庭学習の習慣化や進学に対応する授業という点では、今後の課題とされる点である。
- ・設備施設の充実必要性については、多くの教員が共通して感じているところである。

II. 生徒

1. 評価できる事項

- ・教員が協力し合って学校運営にあたり、学校の雰囲気がよく生徒が生き生きし、本校に入学してよかったと思っている生徒は、保護者・教員に比べると少ないがほぼ満足している。
- ・進路に関する必要な情報提供や面接・アドバイスについては、概ね満足している。
- ・学校行事まずまず楽しく、部活動については活発で充実しているとほぼ捉えている。
- ・学校が家庭への連絡を密にし、熱心に指導してもらっていると感じている生徒が多い。

2. 課題

- ・授業の教え方や工夫、わかり易さ、進度などについては約5割強しか評価していない。
- ・授業を意欲的に取り組む姿勢についても半数に満たない。生徒側と教員側の捉え方にギャップがあり、授業の教え方について工夫・研究の余地がある。
- ・校内の施設・設備についても、半数以上の生徒が不満をもっていることが伺える。
- ・多様な資格を取得させる取り組みについても、一考する必要がある。

III. 保護者

1. 評価できる事項

- ・教員が学校運営に協力し合い、学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしており入学させてよかったという指摘が多い。
- ・学校行事が楽しく、部活動も活発で充実していると捉えている保護者が多い。
- ・教員が生徒の悩みを親身なって相談にのってくれ、面倒見がよいと思われている。

2. 課題

- ・授業公開を今年度から実施したが、授業参観などに来校される機会があまりないので、授業内容や進度などについて把握されていない。

- ・今後、積極的に授業公開への参加を募り授業の実態を見学して頂く努力が必要。
- ・進路についての情報提供やアドバイスも、保護者との連絡を密にし、適切にすることが要求される。
- ・学校のきまりについては納得されているが、生活指導面で家庭との連絡を取り合い、積極的に推進していくべきである。
- ・校内の設備・施設充実の必要性は保護者も感じ取っている。

IV. 教員と生徒との比較による課題

1. わかりやすい授業

- ・教員が工夫しているつもりでも、生徒側は授業内容を理解できていない。⇒生徒の授業内容の理解度を把握する手立てを教員側が検討し、理解度を高めていくことが課題である。

2. 授業進度

- ・進度が遅い(速い)と感じている生徒が教員側に比べて多い。⇒生徒に対しての授業評価アンケートなどを実施する中で、生徒側の意向も十分聞き入れ、授業進度の調整を図っていくことが課題である。

3. 学校生活

- ・教員は概ね肯定しているが、生徒側では不満に思っている場合がある。⇒不満に思っている点を分析し、生徒の要望も十分受けとめながら検討していくことが課題である。

4. HR活動

- ・そう思わない生徒が40%もあり、教員側のデータと大きく異なる。⇒HRにおいて教員と生徒が十分議論を重ね、如何にして自分たちのクラスを、楽しいものにしていくかが課題である。

5. 家庭連絡

- ・問題生徒以外が大半なので、家庭連絡はあまりないはず。⇒問題生徒だけでなく、他の生徒の家庭にも定期的に連絡し、近況を伝え、また聞く努力をしていくことが課題である。

6. 校内施設・設備

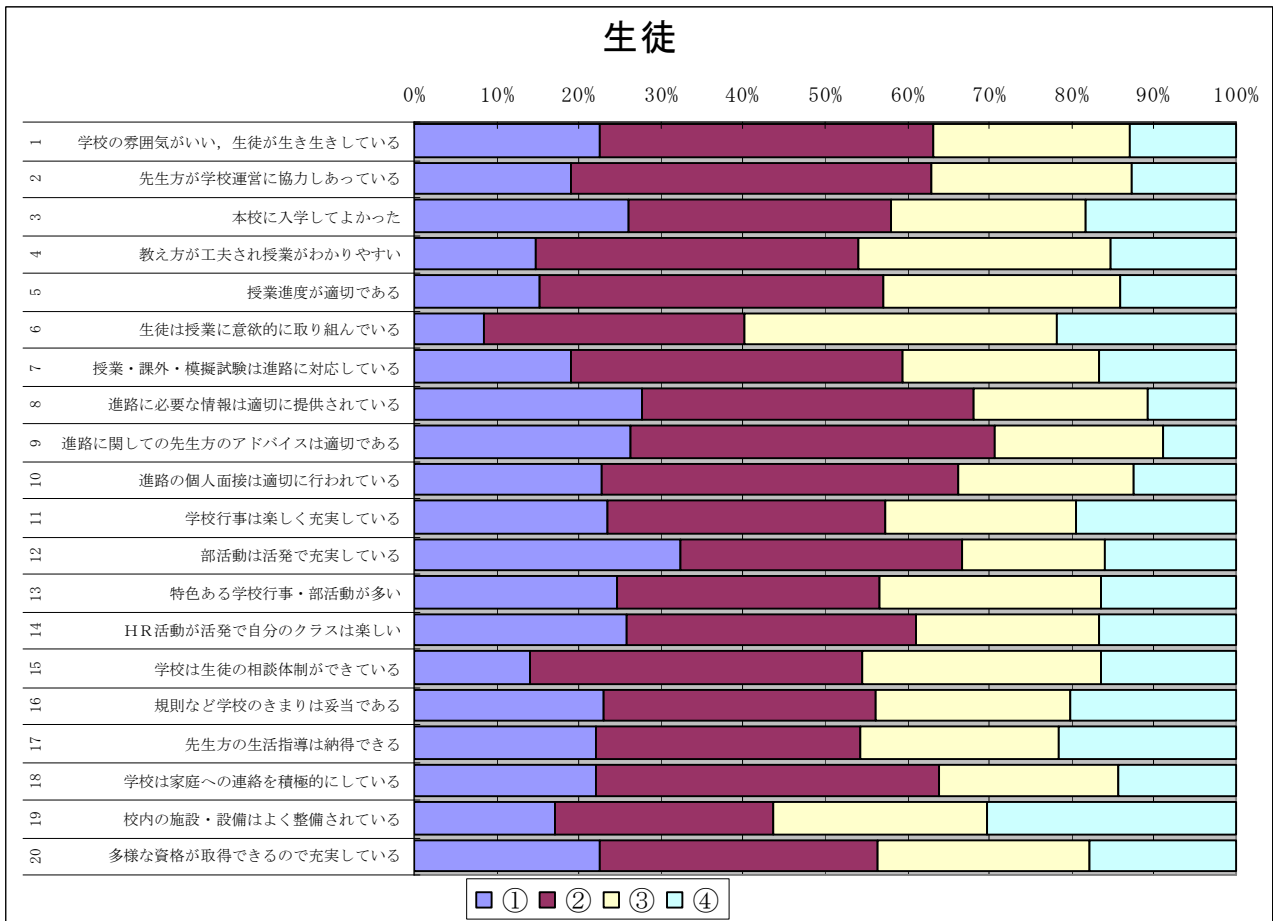
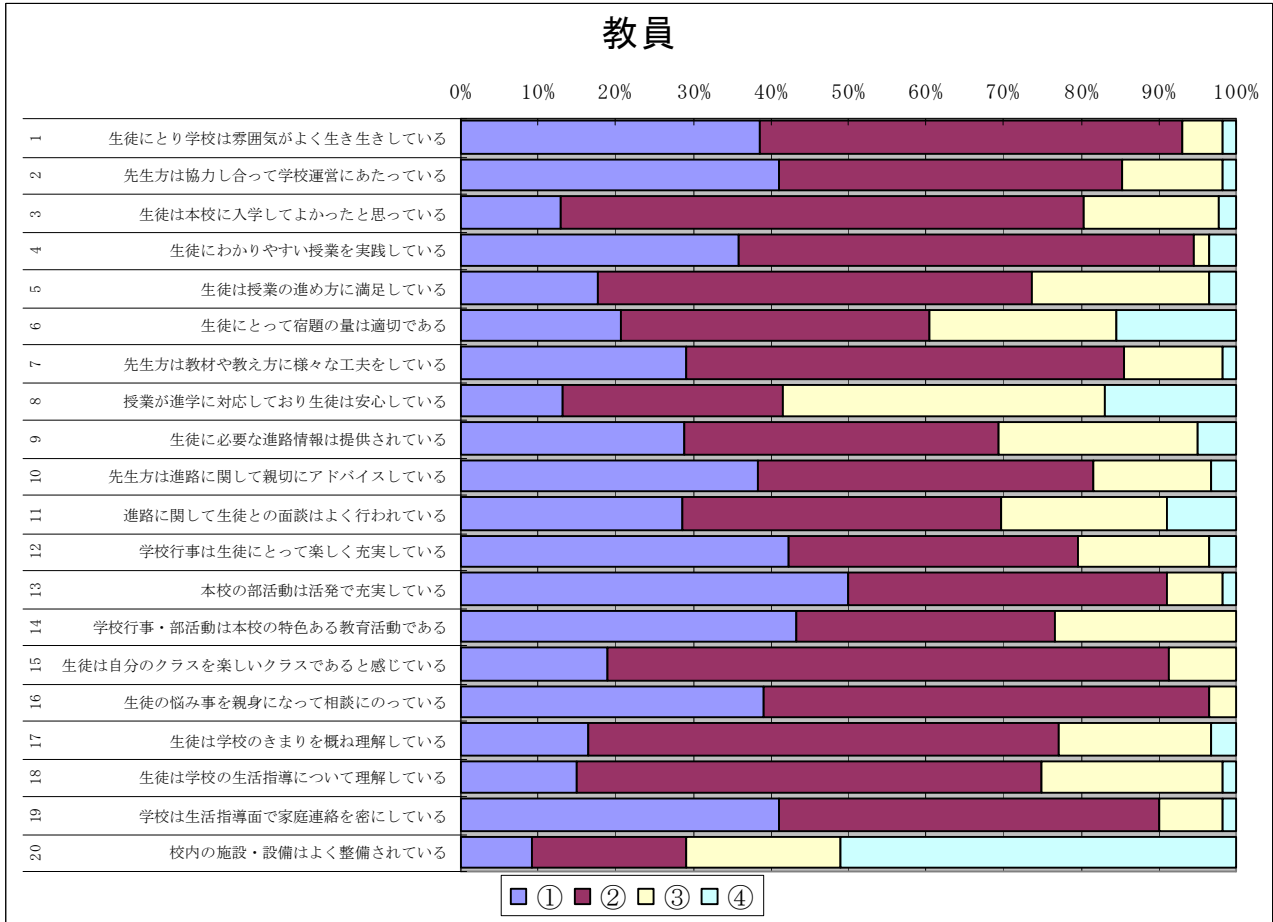
- ・実際に使用している教員・生徒が不満に思っている。⇒具体的にどのような施設・設備に対して不満を持っているのかを分析し、教員・生徒側の意見も聞き取り、改善できるところから実施していくことが課題である。

V. まとめ

- ・教員が学校運営に協力し合い、学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしており入学してよかったと保護者・教員は感じているが、生徒が感じている度合いとギャップがある。
- ・授業の内容や工夫・進度などについては、教員側はかなり努力して取り組んでいると思っているが、生徒側にすればそれに対応するだけの意欲的な姿勢が見られない。学習に対するモチベーションをどう高めるかが重要な課題である。
- ・学校行事や部活動については保護者・教員・生徒とも充実ぶり、活発度などについてはほぼ同様の捉え方である。
- ・進路指導、生活指導については適切な情報提供やアドバイスをすると共に、家庭連絡を密にし、学校と家庭とのさらなる信頼関係の構築をせまられている。
- ・学校の施設・設備については共通して改善の必要性を感じ取っている。
- ・学校からの連絡事項が保護者に十分に届いていない。生徒が連絡文を渡さないという面もあるが、何らかの形で保護者に届く方法を模索する必要がある。

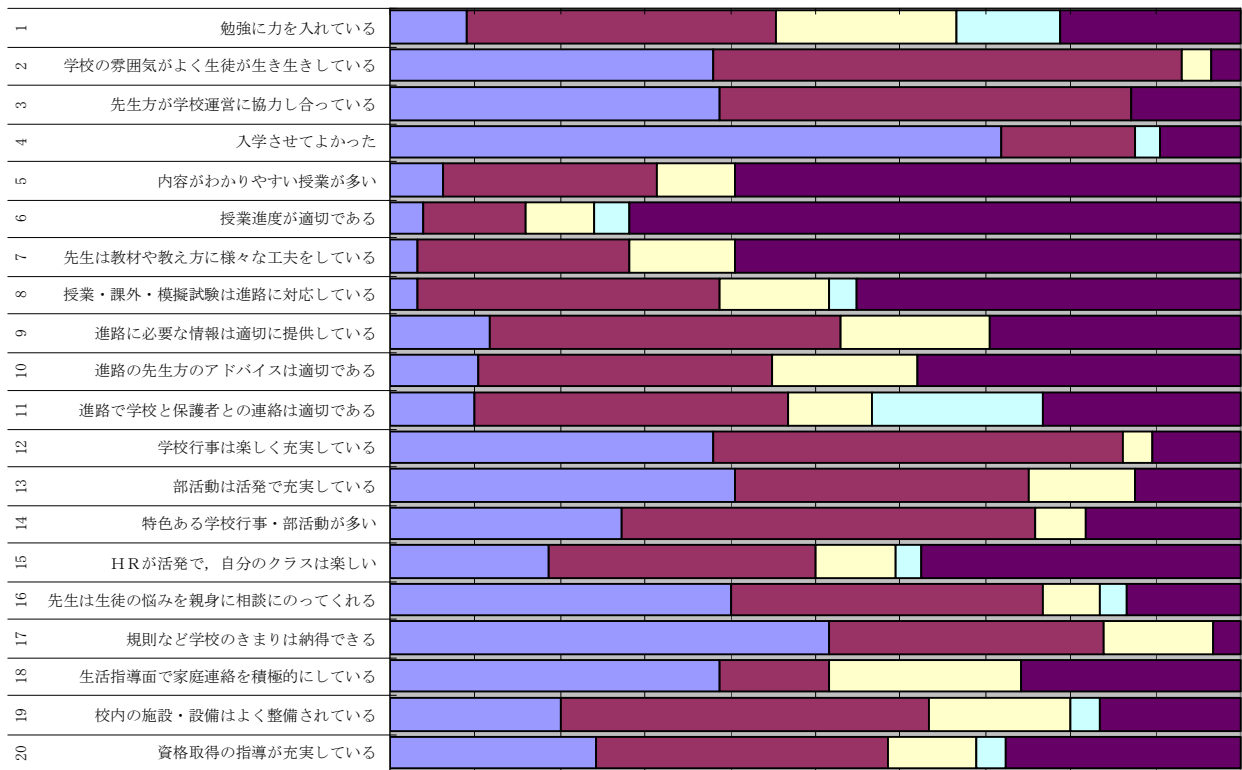
「教員」「生徒」「保護者」集計

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない ⑤わからない



保護者

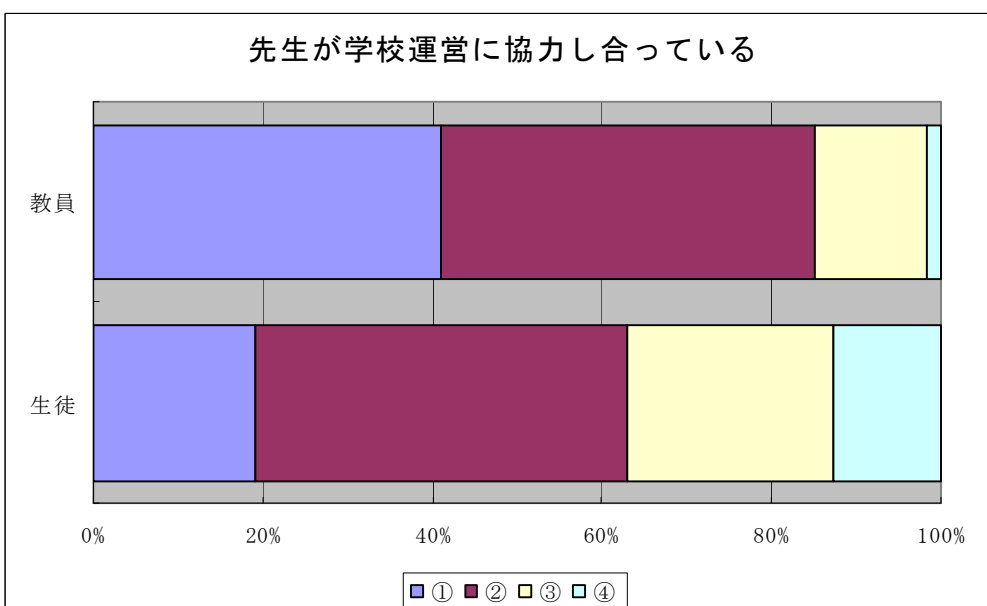
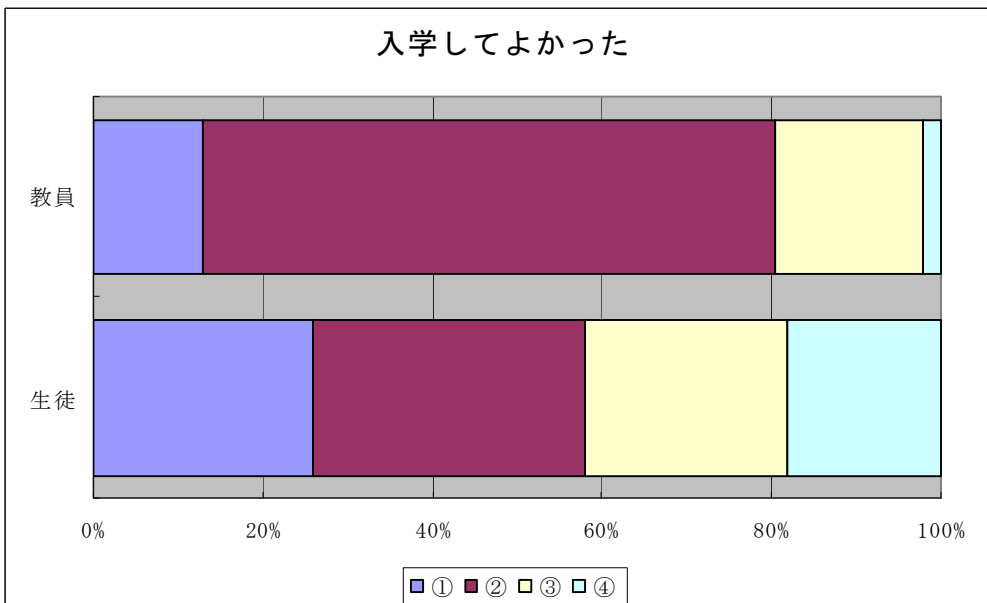
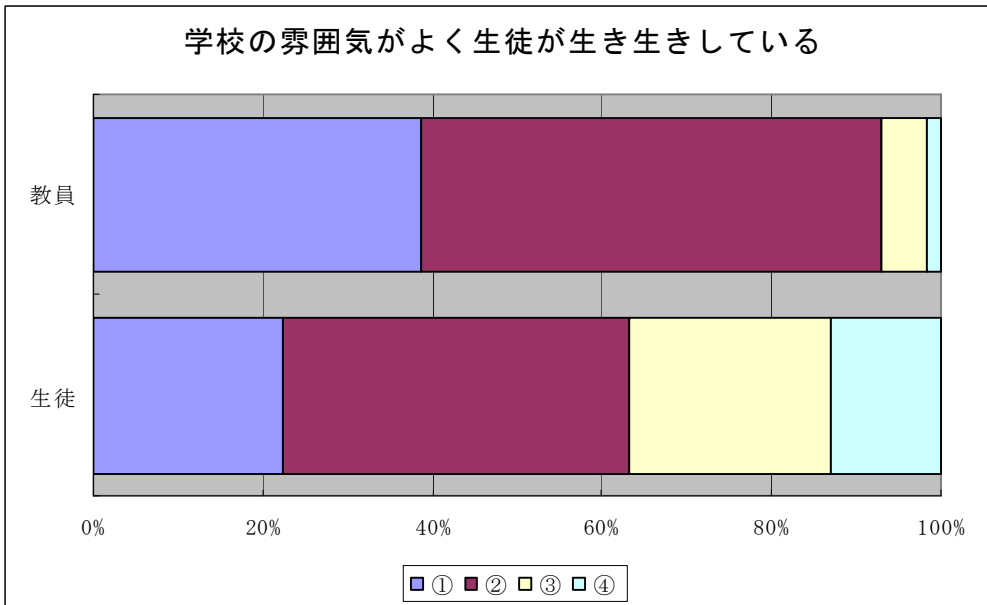
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



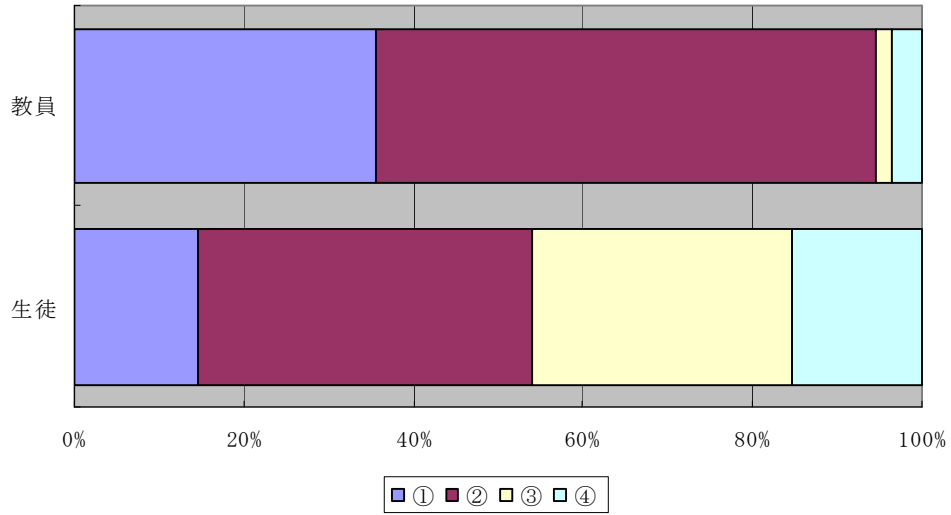
① ② ③ ④ ⑤

「教員」と「生徒」の比較

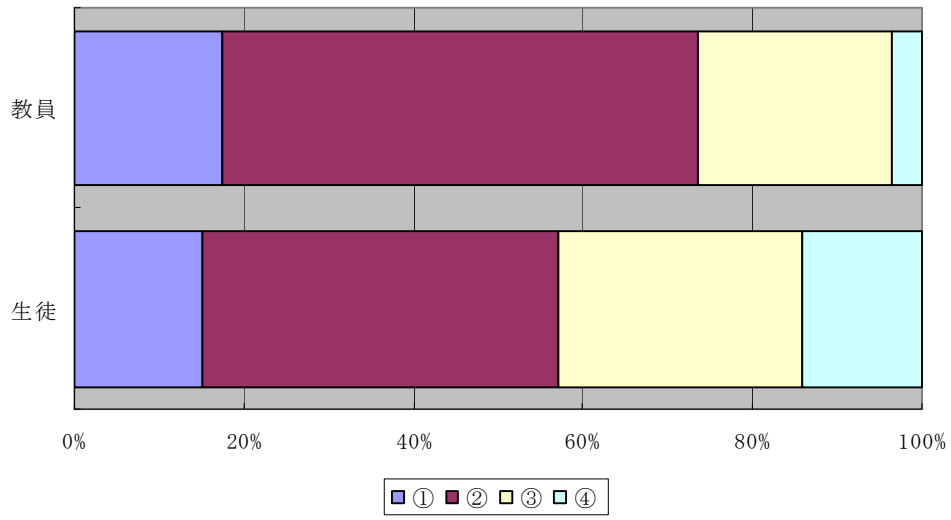
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない ⑤わからない



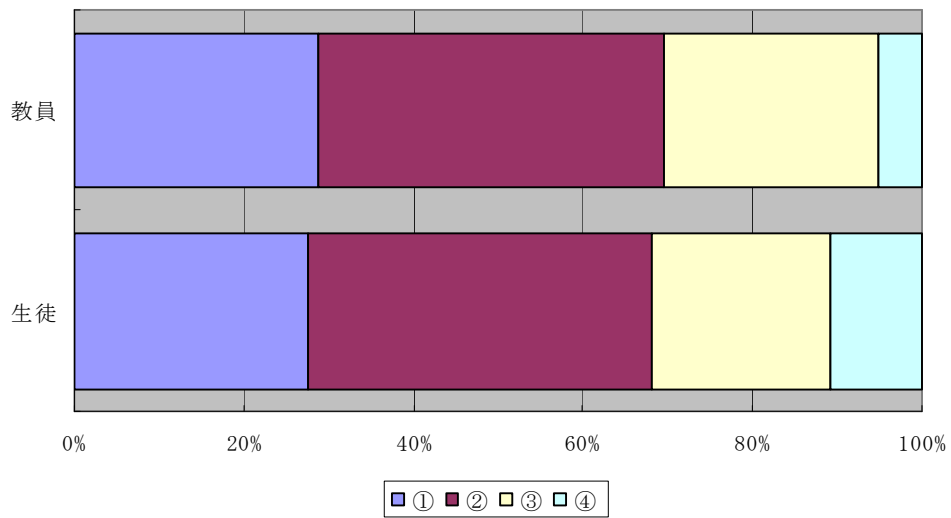
内容がわかりやすい授業が多い



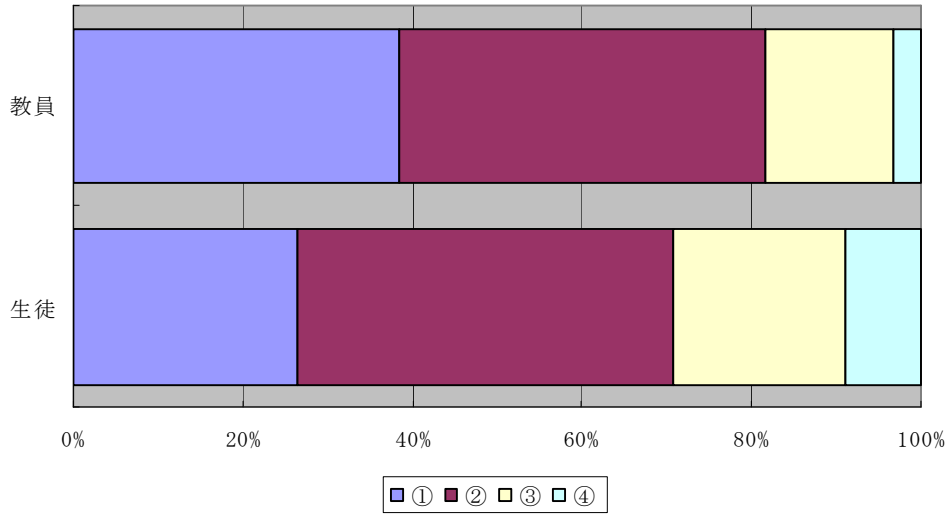
授業進度が適切である



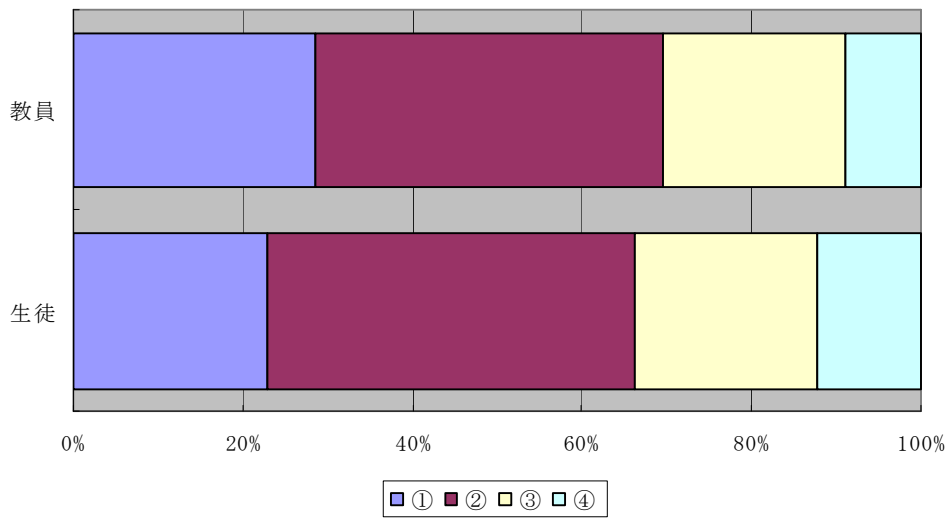
先生は進路に必要な情報は適切に提供している



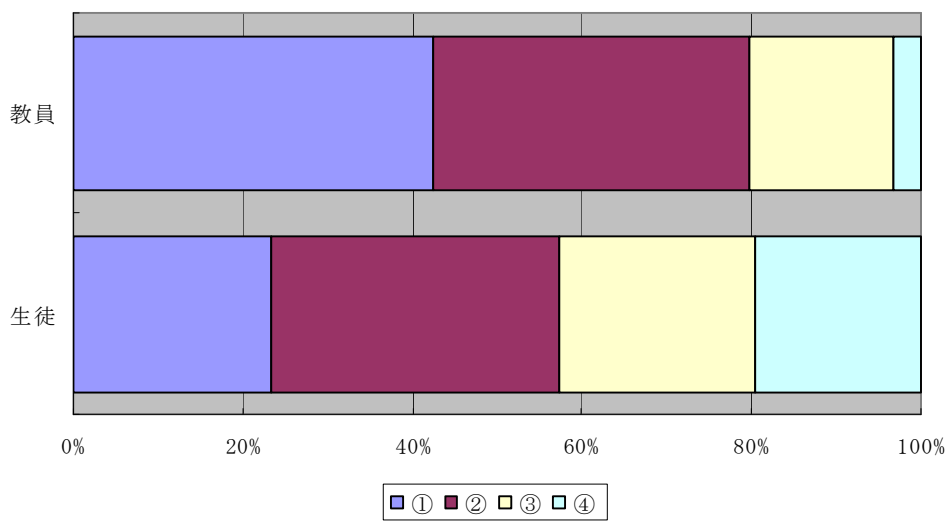
進路に関して先生のアドバイスは適切である



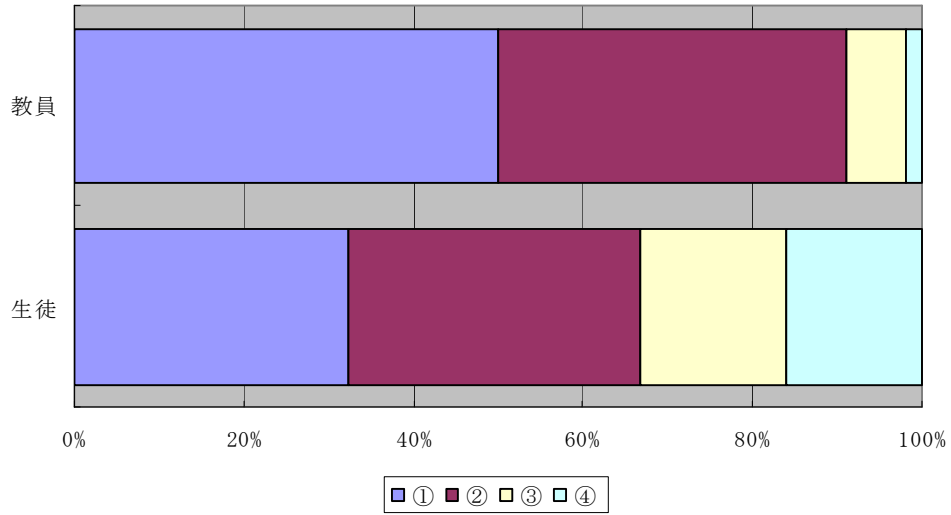
進路に関する個人面接は適切に行われている



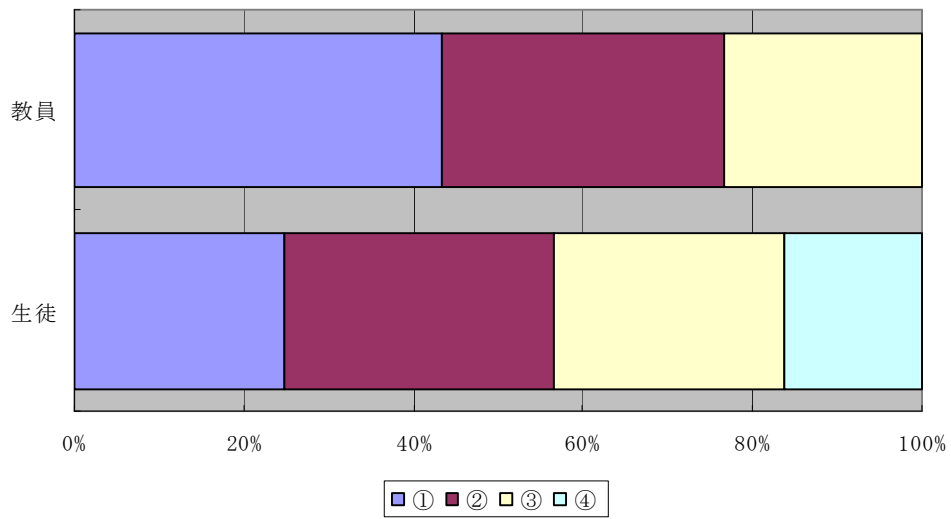
学校行事は楽しく充実している



部活動は活発で充実している



特色ある学校行事・部活動が多い



HRが活発で、自分のクラスは楽しいと感じている

